

消火薬剤輸送技術による 新たな消火法の開発



HIROSAKI
UNIVERSITY

弘前大学大学院 理工学研究科 准教授 鳥飼宏之

～現在の消火技術～

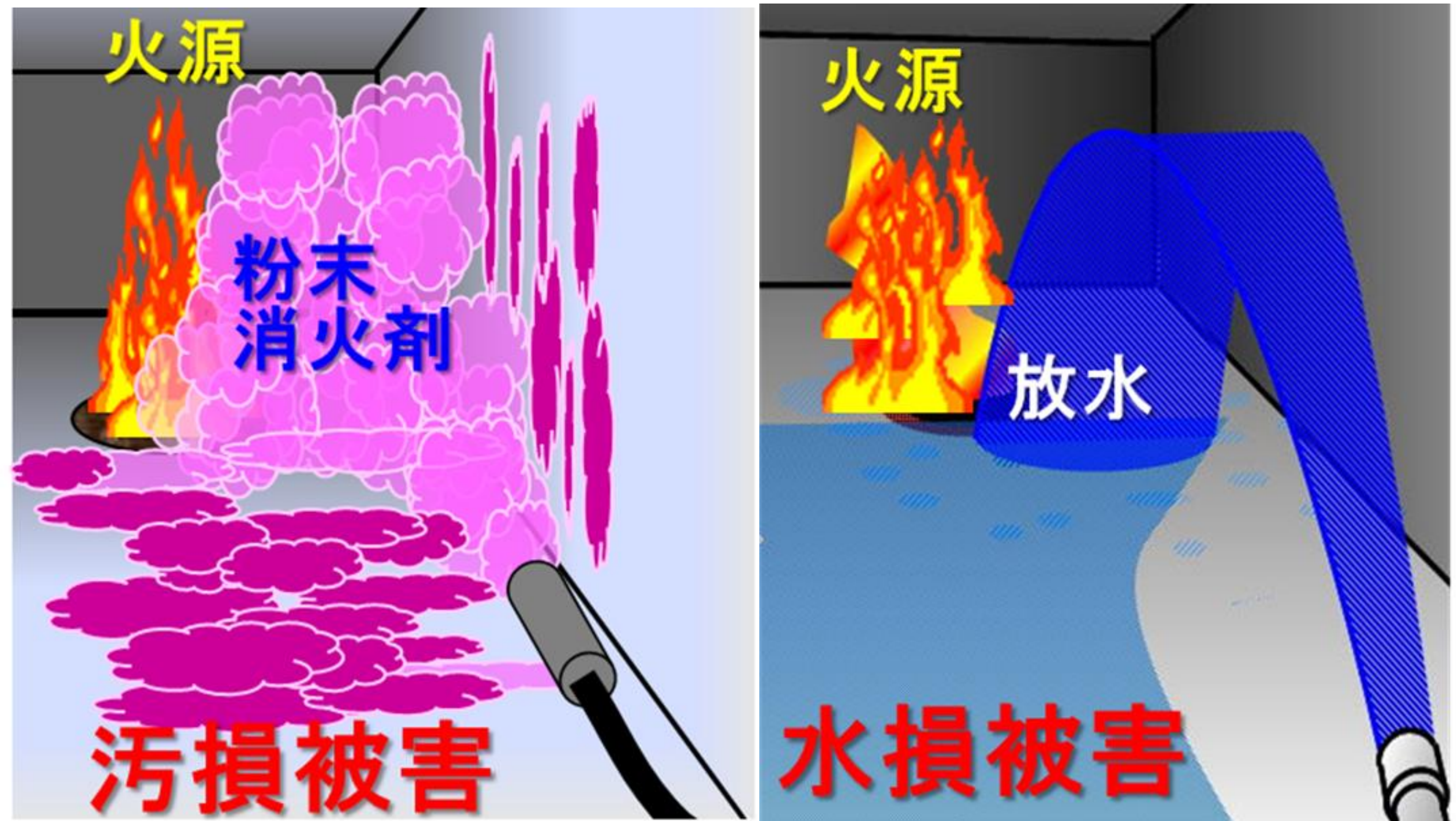
○通常の火災

Case : 粉末消火剤 (消火器)

課題 使用後の掃除が大変
消火器の使用に慣れていない
火源への射程距離が限られている
(図左を参照)

Case : 水

課題 機器物品等の損害が生じる
(図右を参照)



○緊急時の火災

Case : 大規模地震

課題 インフラが破壊される
(写真左を参照)
同時多発的に火災が発生する
(写真右を参照)



一般的な火災では、初期消火には粉末消火剤が使用され、また建築物が燃えている場合水が使用される。消火活動によって引き起こされる汚損/水損という二次的な被害が生じてしまう。

大規模災害時に発生する火災（例えば、地震火災）では、道路や消火栓などのインフラが激しく破壊され、通常の消火法が使用できなくなる。また、広域で同時多発的に火災が生じることが多く、地域の消防力を上回ると対応が不可能となる。

【問い合わせ先】弘前大学東京事務所
E-mail:j-tokyo@hirosaki-u.ac.jp